860
31

大藏永常

黄葉園隨筆

大藏永常の自筆ニ係ル

完

国立国会図書館　タイトル『黄葉園隨筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

860-31

越後の国の城主榊原某の領地なる白川と云ふ
よ、あらし白川郡なるよし今
白川と云ふ地名を実名ならんと思ふ地理を
奥州越奥越後越奥
奥と書せる、深意あるよし地名
第松山より東の方諸越奥の地
へ行けーより越奥と云くるまでを
へ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

860-31

青緑書屋

越後の国の城主榊原某の領地より白川と云
よ、あらそひ白川郡内みだれなよ白川の領と云今
白川と云ふは城地を云ふ事勿論なり地理を不知
奥州と云より奥州越奥越後越奥と云ふ事あり昔は
奥と云ふ総名よりて地名となりあらそひ往古も
彩花山より東の方諸越奥の地よりて云事
云ふけりより越奥と云ふ事をしらくなりぬ
へし

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

けれの地理をしるす
まのすへおさなためなるへんら
今津駅原村駅より美杉へ御巡
ふ山あり叶山の石を柱のそし
又の名の角石として制まちをく
米沢より小出をへふ而より七百彩
り此所の東より横川とへふ川あり
上へ落ちて海へ入る川なり舟川
又材れば乗舟をぬんてそのよ
川より投松ち出勇集りて争ひ
越後の国小の方へもさ地なり

米沢領小出をへふ而より弐里七丁
より又を里半七丁ありて越後国
名ふの玉川よりあらひ
米沢領と越後国ひよ境又山境をへふ
ふもの実を結びて境ちる宝ちあり
米沢と越後国ひよ大刈峠とへふ
ふの山なり叶山より蛇骨とへふ
松山より当蛇骨と六実ものなり
石のあるなり
和よもつ法谷の山とへふを越ん
よりも出椒石を乗ひよふの石なり

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

生肉をうるなり

山形の町よりうち尺餘りの赤色の石あり古人市の神といふ此石高尺餘久しくして色あせ石もくづるゝ

宝領庵高沢の駅より鈴木左衛門といひし人ありて昔佐竹家より在銭の事を請負しことなるが其子孫なり

の庭に梅の化石ありこれも尺餘九七八尺枝あつてよく石となりて

新庄より清水までの間いたるところ白合多く生じて花大なる八牡丹のごとし又桔梗多く色濃くその大さ海門外より八寸餘まさりたるを見る

沢頓上小松といふ所より渓川より奥石炭を出す

渓川より谷川より奥石炭を出す

あり温泉の湧出る所の水口（湯本入れ口）に湯の花多く生じて

ありて熱湯なり此湯の水口より出る又は熱湯の水口より生

ふ人湯の出口より熱湯の湧り出る所を乾

佐せ石横氣の如き系と云人湯より夏水口入湯の多

し熱湯なるゆえ水を汲入れて入るよし

上小松大川といふ川より産する石を琥珀石といふ

ところの化石あり辻辺より化石多し

三枝君鯨石を求めたまふ此化石は生物の

せり江戸より西の郡よりあつむる年貢
清川より出る米なり此所より舟にて
まで五里あり社あり世社より義経記
五里より今六郷矢してなどと云人家
町田川とて此川を田川と云此川
り今また六郷橋あり田川を渡
いたし（義経奥州へ下りしまゝ
右せんとする時人あり舟に
後を乗越舟より数日止めし
の筆記抔有（あるよし）

羽黒山古人望二十代宗峻天皇
年の開基なり本社稲倉魂
伝記信二十五坊山伏衆徒皆領
して学頭を宝珠院寺号
三尺余也、古田の社名抔は除
九社の内なる伊須波の社
波の社とは稲倉の別号
鬼田領小深村より三里
村までの道より杉の化石あり
右大臣頼朝卿の建立
おとよ杭のまゝ化して石と
の石と化せしもあり

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○生駒屋の名物とする八升石まで指渡し
十丁程猪飼野の里あり此山小松原
多く候て松茸夥しく出候事年々の
○林田領(モリ)泰吉山と云ふ山あり此山より
の眺望の実を見るべし上代の
石を見るべく光りありて市より
せむ市のあるべくもあらず
羽州林田津軽の地にさしてへだ
る事一掃たり
○今津と云渡口まで八海里
ありとの云人いふ

○汕来(津)軽領の百性ども市より
入の衣服ふるき麻布をさして
おのおのより市以上の百性
入をなせり
○津軽辺より浄瑠璃巡礼廻国の
廻る白布を結ぶ事上古の
くの事上古の人も多く程の
なり和歌をなせり
○津軽辺の浜辺にあり津軽領平館と云ふ
よき漁家百軒ばかりあり此海浜
○杉苔又ハ海藻北より積ふ往来
江戸より下ま多く此花なる花ハ杉苔の如く又ハ

なりこれよりこれ以前の事は知れ難し
彼の地語りつたふる所にては彼地造の家数多
百軒ばかりも並びたりしなるべし
○
ヱトウケとふもの製ふ所容易ならず
まづ粗土こねまぜ一抱ばかりある梯形の
ものを造りこれを乾かすこと数日
○
ヱトウケとふもの首よりかけ
ものあり夫もこれ程の
らなくて首よりかけさるよし
○
ヱトウケとふもの製ふ所容易ならず
まづ粗土こねまぜ一抱ばかりある梯形の
ものを造りこれを乾かすこと数日
○
姫夷の婦人晴れの時

とよたの尼おなくなりし事をも
憐なとを語りあだくに時曲もしら
めの尼おもこの尼おを宮仕して事柄よあり

○日本の称号を称せる六人の姫君の
なく國主地頭となりまもなく
ものなり称武帝八智よりて
くは同一事なて今の学のこと
玉泡となりしものなり

○姫君も今ふて八苔の松るもなく
また日本のうちは文字をみるもの
○松和も漏今時代のに八今の姫君

人なりしよし

○既に正徳年中姫君人格人なり漢籍の事をよくほふして
書より物漢の事をよくほふして
なりて業をも清姫よ山氣
ありしに於ふ八近江(キンカウ)の妻と争ひ論の出来しお戦
うでおふく一ぢたをき殺され湖に人
比来りしものまて再び論せをく
あよは意趣をいてさしおれ
てこう位よ於ふれ小僧のる小
も多る事なく文字もふりて
ふおの八今石橋の迎ふ和歌の
人なりしよし

○既に正徳年中姫君人格人なり漢籍の事をよくほふして
書より物漢の事をよくほふして
なりて業をも清姫よ山氣
ありしに於ふ八近江(キンカウ)の妻と争ひ論の出来しお戦
うでおふく一ぢたをき殺され湖に人
比来りしものまて再び論せをく
あよは意趣をいてさしおれ
てこう位よ於ふれ小僧のる小
も多る事なく文字もふりて
ふおの八今石橋の迎ふ和歌の

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

程美の侍女も打伏て事よりそ

○日ぐれて今宵ふけなんとするに語ふ事もつきて
りて云ふる云ふまでもこと
秘めたりとぞ

○若姫夫人生ひたちまでの
なり化人より代りのものを（さ
もまゐりも代りをおこせざれば
扨あり既にそもそも彩ふ事
うとてふ日ぬのてくだ
ともをおふけるとふる
重ねふ通のお花なるあよ
彼日ぬの為抱或離別より

○日ぐれ人の日寂ありをふより姫夫の日府人老ひ
かありて何事もお夫なるよ

○姫夫私も憂まそ日ぬよりも
刻り所まで押へ憂まそまを
もの事なり姫夫北ふ
なるあよ打なりとぞ

○姫夫の婦人打ぬへ系る
鮒をニシンともお人ふるをカツ
未より来りて三月宮ぬ
よ

○鮒多き弁お海上一俵るくぬ
集の何ぬの海より来りおくぬ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

○杉和海濱杜百の大海陽く熱と
事かゝし

○杉和及姫夫まそ八年中の詩男
熱の私杜氏八武都郡都漢都郡
何の為そもなく我ら住都八姫を
なく住都を建都都ふと熱を
まて働き婦人小童八教のまを利
姫夫北へ大まのの十人も指
ありより

○杉和よりおそ男の妻迄八おし
多分の年八妻年とそ私ふ
とそ

○杉和及姫夫北まて来高倍まても熱教多れ
困ひたそ来倍下まと人とも熱私
基礎深まる

○杉和まて熱の字なそ化
まて熱の字をまると人り

○杉和及姫夫北まそ熱二月の末よ
二月宵宮年まれてお月始
の名を称となく働き詩月
捗ひ者せしよし

○姫杜熱を当まる杉和廃より
組まも定りし杜めあり者人婚
ならび多都の杜一まさる私より日本の利

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

いろ〳〵細くてすきも空りあるよー

○ 鯨八杉和堰東北数多ありからこ

○ 数の子八月下八中も及ぎ中美よも倩好よー

○ 杉和濱より堰東の海濱の石鯨多く死なよー

○ 杉和商人逸くの船を堰東北へ招り鯨或八数のる

と交易をよー

○ 杉和の市中八能町まて漢の婦人まても容

或和製の玉なるのひより

○ 雑笠一重極めの風俗もよすれのよー笠八京大坂

上方風よ校り語葵もお雀あるよー

○ 杉和より東の方福一まとして

福一四川と云川ありけ川よ西

辺奥州よさ〳〵何ひうるのよー

○ 一の渡りより石迄までの駐宗うるよ空りてるのより

杉戸より石迄までの荘宗うるよ空りてるのより

○ 杉戸より石迄までの荘宗うるよ空りてるのより

杉戸より石迄までの荘宗うるよ空りてるのより

○ 杉和の市中八能町まて漢の婦人まても容

或和製の玉なるのひより

○ 杉和より東の方福一まとして

福一四川と云川ありけ川よ西

辺奥州よさ〳〵何ひうるのよー

○ 一の渡りより石迄までの駐

○松和尚の浄法なる事 姫夷北（松るのみ和尚夷島ふ成
より
○姫夷北（エゾ）まして死せしものある時八尚
窓より死人を出して葬る事一切姫夷北の風のよし
くの家造りとんでも窓ともくは
○姫夷の家の窓より出よりのぞき入る事我甚尚婦お
て化の人窓より出よりのぞき入てみるを姫夷人よ
又尽くれる書立彼して借ひものふ出れて持て来る
うまよしさなよし姫夷北の事ふ
北の事一番夷人をいこな乳つれて
○姫夷人も神仏ほの事一切
を祭る事海神を祭るよ
○姫夷よて八父か母う又八夫なと死せし時三年う百日
の後まて尚を掛ひ初より出の時来の後尚を祭るよ
○姫夷北まて如尽くして市店のお
家の人如房三人も子供人指當
夷の妻とふのみふして別家よ住
をはてるなとを書ひよし婦
くしてふ変なとを改てふしとも
○松和人のふ妙俗男まて当世の
のやりめ着ふ糸り入乳せし
せ乳歴てのよ孫の家掛とするよ
○姫夷の人八七寿と云年八六十歳より下松和及
姫夷延の百百里位もおりして
るよ七十歳より上

の人文よろこびあへりまたも十歳よりうへの老人
もなほしと入り娘夫人八名魚なども
乳の汚きを忘れ給ふ六十歳以上八棒
人のよし

○
津巡見使杉本忠次郎在長崎（松平定信）
年六十歳余まで為年か時娘夫
糸りしなまた津巡見使（付添よ杉本
よしたり又越後もたの咄しを
サンメンとふまありサンメンの小
りタラヒの和ふまありさま八西北へ続き
て東蝦夷の端より何百里も
もそのまゝ無人の三ンシロの津まで
ふ通の夫人なれど為家とふ
と遠く数百里の間を食ひ重
ふ通の夫人八日本の高
と遠く数百里の間を食ひ重
為家とふ

○
杉本忠次郎より日本産物
数まで書記
ふ通の夫人八日本の高
と遠く数百里の間を食ひ重
為家とふ

○
杉本忠次郎より日本産物記数

人形人形などよしたる事物を持ち
こゝかしこのおと交易をするよし
○
松前の人ソウヤ」へ交易する事
年々事例なるゆゑ松前屋の利益を望く
なりてはを背く夷人をも
を背くものあれば松前の役人
松前の商家小谷兵右衛門
（ゆゑ戦争をおこして
ーをも乱暴ゆゑ大概
火の側より左衛門
より書通ひ
れど後ろより

○
ソウヤ辺の夷人冬月魚
もれば松前商人来るを待
松前より「ソウヤ」へ戦争
とふさりをうるゆゑ
ゆゑを乱暴
てふよし

○
松前の商人「ソウヤ」へ
言語よりかね
め有ゆゑソウヤの夷人
含るものもうて

○
松前の商人毎年
もをうけ乱暴
ソウヤ辺の夷人冬月魚
もれば松前商人来るを待
松前より「ソウヤ」へ戦争
とふさりをうるゆゑ
ゆゑを乱暴
てふよし

○
松前の商人「ソウヤ」へ
言語よりかね
め有ゆゑソウヤの夷人
含るものもうて

○
松前の商人毎年

よろず人又七八十人も集りて更易のことあり「アッケ」と
云ひ次ぎて、毎年かくよし。こゝまでなれば夫人も
海辺まで待ちよし。船を出して大ごゑを揚
げ船尾船先にも二ゝバ船を並べて別離の夫人を招き入れ
びて別離の夫人を招き入れ船へ移る。
商人の資本を持ち逃げして抱へ有て情我のふる事
ある夫人を添切るものゝふるまひよし抱へ合ひて資を持て逃
ひよし抱へ合ひて資を持て逃げ去る。

○夫人は貞正道よりて人のふるまひを信じ給ふ
商人をあく偽る事よりふるまひて夫人をこくなりて偽
る事ふびんなり

○夫人の家まで死人あれば家より山へ葬り送り

○夫人平生の物いひもふるまひも忘ぬ始ひなよ
お前商人交易より帰り後まで死せる物いひをふ忘
ありもし誤つて死せると云ひて償ものをふるまひ
あり

○男子忌み夫人なくして父母よく孝
まして父母のふるまひをおもふべし。父母死せし仕
方なくまれかきりのものとくんじて父母存生中たゞ
せれば死して後ためにもなりて益なしとするなよ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

日本の必ず供奉する事を定めり

○浦巡見使松前へ来城ごとに松前城の内より入りて乗る所の船おもれむ大概る七八万石の諸侯の城構の如くなり又松前の構えも及ばず奥地ふるえ松前の構えも城下小姓町を廻りとある位の大河ウトアツケ辺へ渡船せる上乗船を給事とて交代毎に先重役より一人宛出張して穴賢を以て交易のことを掌る故に交易の事は松前侯と雖も交易のことは松前家臣の代一浦二浦と会所を設けて交易の事ありて中々の繁昌なり

○松前侯の領地六郡ありと雖も米穀の如きは僅に出来れば元重宝とする所なり

○松前より交易の諸品

干鰯　鯡の〆粕を煮て其汁を煮つめて製するもの

昆布　是も諸国より松前へ来りて交易するもの

鯡　是も諸国より来りて交易するもの

鮭　是も諸国より来りて交易するもの

鱒　是も諸国より来りて交易するもの

鯡の子　是も諸国より来りて交易するもの

○松前より交易の諸品

鯡　鯡多くとれて松前中の食とする外諸国へ出す

鮭　是も多くとれて松前中の食とする外諸国へ出す

鱒　是も多くとれて松前中の食とする外諸国へ出す

鯡の子　是も多くとれて松前中の食とする外諸国へ出す

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』 請求記号 860-31　　ガラス使用

○鯵の干もの時候なれば杉浦へ鯵も秋くさる鯵を乞ふ秋くさる鯵をまことに幸ひて跡よりまことに幸ひて又もや鯵を乞ひぬ秋ぬまでくさる百十百かけまで鯵を乞ひぬ秋ぬまでくさるとなり

○堀夫地まで麻のを鯵といふ魚我家にて油をそゝぎ油をそゝぎ油をそゝぎ

一事はあれども計ることなし
大辺部あるべからず
しかし門弟を率ひて
て海を渡り書を講ずるものなるべし

○

馬八支那海四千里を
至る奥州小牧より海を
登米に移す
るもの宝永六年の頃
刀あり金鎖にて結びさげ
紙の袋を付てあり
文を露び出でより
りあるごとく一寸の
てあり
まくあるなり

○

高山の儀右衛門
孔子乃弟子三千人あり
七十二人あり
くたの通

徒弟をもる人八

顔回　閔子騫
冉伯牛　仲弓
言語　宰我　子貢

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

政事　冉有（ゼンユウ）　季路（キロ）　子路（シロ）

學文　子游　子夏

○富家ハあれともなを富ることをねかひ富てハ猶ほそなをうしなハんことをおそれ人ハ悪ものなれハ一度改てのち人となりぬれハ猶ほ悪ものとなることをおそるるなり

○貴人ハ賤しきより先ハ起ていまだ貴からさるさきハ賤しきを恥ず貴くなりぬれハ賤しきを恥るものなり

○馬ハ走てもの時ハ前足より立後足より立ものなり

○姫とハ妻のまゝ嫁せる我ハ

○内儀ハ内室ハ本夫ハ外にてもの時ハ内儀とハいふ

○奥とハ内儀と同義なり

○お家様とハ奥さまと同義なり

○息女とハ姫の事我ハ

○為市とハうくの如市か繕名なり

○後家とハ夫先立て妻あとにのこりて都をしるをいふ

○ 姥と八女の老人をゝ
○ 妃と八妻ともゝこそ死ともゝ
○ 姫と八高位の姫をゝ
○ 狩ると八我先年のゝ我ゝ
○ 嫁と八女のむゝる我ゝ
○ 年七と八田ゝう（女をゝ
○ 伊勢乃浄田の事ゝ月六八ゝ
浄田ゝう（あり
○ にてとり八雄ゝる年くゝ記さゝ
ゝ告ける少（雄ゝる記さ時をつく
ゝるとゝふ皆夫婦の仮ゝちな
ゝり

○ 異兄とゝふゝ八異ゝとゝふ字ゝ
我一人のゝて八ゝ的ゝをゝざゝる
理をゝゝるをゝ兄とゝふ（り
○ 衣紋の神の名ゝをゝ信（ヒ）ゝ
ゝ的ゝ碑のゝゝじ生ゝゝ少（よ
年旦年的ゝ二ッもゝあゝつ
ゝ首と八首をゝ北まつけ礼謝
ゝるんをゝふ
○ 阡（ヤマヒ）と八ゝ山ゝの阡（ヤマヒ）とゝふゝ
ゝ嫉（ネタミ）をふをゝふ
○ 蒼天と八青の天をゝふ異（カワ）と八
林の天我ゝふ上天と八冬の天
をゝふ異（ヒシ）天と八夏の天をゝふ異天と八

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○紡績（つむぎ）糸（いと）と八すゝきの穂（ほ）をゝ
○生絹（すゞし）と八女郎花（おみなへし）の枝（えだ）をゝ
○垂乳根（たらちね）と八父母（ちゝはゝ）をゝ
○啄木（きつゝき）と八表奥（おもてうら）を捜（さが）す絵（え）をゝ
○衣通姫（そとほりひめ）八古（いにしへ）の美人（びじん）をゝ
○衣架（えだか）と八衣桁（いかう）の事（こと）歟（か）ゝ衣（ころも）
○旧記（きうき）と八天子（てんし）の作（つくり）魚（うを）をゝ
○宇宙（うちう）と八戸子（こし）ゝ云（いふ）天地（てんち）四方（しはう）歟（か）宇（う）
宙（ちう）とゝ
○山茶（さゝんくわ）と八未央（びわう）の額（ひたひ）をゝ
○楊妃（やうひ）と八玄宗（げんそう）の后（きさき）楊氏（やうし）の姫（ひめ）をゝ

○八乙女（をとめ）と八神（かみ）の舞姫（まひひめ）をゝ
○随意（まゝ）とゝ云事（いふこと）八まゝ子（こ）とゝゝ云（いふ）ゝ心（こゝろ）もせる
の義（ぎ）なり
○下臈（げらう）と八読（よび）名（な）歟（か）或（あるひ）ハ社（やしろ）の
下（した）働（はたらき）の女（をんな）なるの姫（ひめ）を指（さす）ゝ事（こと）ゝ
○下婢（かひ）とゝ
○曽孫（ひまご）と八孫（まご）の孫（まご）なり
○玄孫（やしやご）と八曽孫（ひまご）の子（こ）をゝ
○庭訓（ていきん）と父（ちゝ）より教（をしへ）ゝまゝもる事（こと）を
篇（へん）よあり
○聖徳（しやうとく）太子（たいし）八用明天皇（ようめいてんわう）の御子（みこ）なり
○尚書（しやうしよ）と八書（ふみ）ゝ名（な）にて堯（げう）舜（しゆん）の
事（こと）を記（しる）せる書（しよ）とゝ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○尚書八古聖の語を集あつめ孔子の刪定を經たる
ものなれば其文章の古雅なるは勿論なり
○人倫の綱常道徳の要領を説たるものにて
堯舜より以下三代の聖王の治績を叙し
其間に賢臣良佐の嘉言善政を載せ
又君臣の相戒むる所民庶の相勧むる所
を挙げ以て後世の模範となせり
○書經の文體は古雅にして簡奥なり
其文章の古雅なるは上古の質朴なる
時代の言語を其儘に記したるものなれば
なり
其簡奥なるは文字を節約して
多くの意義を含ませたるものなり
○書經の文章は古雅簡奥なるが故に
讀むこと甚難し

○

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』 請求記号 860-31

ガラス使用

一 源孝元妻人　寛文八年二月六日寂
一 休文明八年寂
一 弘法大師承和二年入滅
一 日蓮宗旨建立ヨリ弘安五年迄
一 小野小町仁寿二年頃
一 菅丞相　兼和十二年ヨリ生
　延喜三年二月二十五日薨　五十九歳

昔元正の書よき格のおもむきとこそみて後よりもひらきよ

雑煮

大根　牛房　山のいも　こんぶ　栗

ゐな　　　

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

神拝辞

掛(カケ)麻久毛(マクモ)畏(カシコ)支(キ)

天照皇太神御前(ミマエ)尓(ニ)白(マヲ)左(サ)久(ク)

天(アマ)津(ツ)祝詞(ノリト)乃(ノ)太(フト)祝詞(ノリト)事(コト)遠(ヲ)

宇(ウ)遥(ケ)尓(ニ)拝(ヲカ)美(ミ)奉(タテマツ)留(ル)

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

○王ヲ大君ト云ハ天子ノ下ナルヘシ

○スメラキモ、ミカトモ同シ下也

○アコトハ乳母ノ下ナリ

○義絶トハ夫婦君臣云詞ナルヲ父子ニ

大ナル誤ナリ

○南部ヨリ先ハ蝦夷ノ地ナルヘシ外ノ濱

ト云モ日本ノ外ト云コトナルヘシ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

○黒ハクラキ也赤ハアカルキ也白ハシロキ也
青ハアヲキナリ黄ハ木ナルヘシ
○古ハ天子ヲ皇ト云テ宮ヲ王ト云ハ天子ノ
ア也ト思フハ天然ノ理リニヤ
○毒ヲフストト云ハ附フナル也
成ヲシゲテヨムフハ山ノ重ルヲ一成二成ト云
ヨリ出タルナルヘシ
○光ヲミツトヨムハ充ノ誤レルナラン

○牛頭天王トハ神農氏ノ尾ノフナルヘシ
○地名ニ尾ト云ハ丘ノ字也
○公家武家ト云フハ鎌倉以後ノフナリ
○下手人ヲ取ト云フモ律ニ鬪歐罪ヲハタラ
ノ相手ノ内ニテ重手ヲハセタル人ヲ下手人ト
名付テ疵付ル者ノ死スレハ其ヲ殺スフナルヲ
誤テ抵死スルフト云ルナリ
○賢ヲカタト云モ質ノ字ヨリ誤レルニヤ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○蘭ヲ銭ヲ七ニ雁ヲガリ蟬ヲゼミト云吾邦ニ有物ナレド和名ナリテ漢語ヲ用ヒメリ

○今ノ世ニ苗字ヲ姓トス定ムヘキ也姓ノミシヲ人アルカ故ナリ

○頼朝ノ文ハ多クハカナフミ也今時ノ文ノ詞ノ様成ルハ室町家ヨリ始レ其前皆庭訓ナトノヤウナル詞ナレハ故文盲ナル人

○ハ得カニデカナフミヲ用タル成ヘシ

○ハウラウト云ハ伯樂ノ誤ナルヘシ

○脇ノすハ一尺三すヲ用ルナル也法曲日要抄ニ見エ其比ハフトコロ指ニモシタル也

○柳ハ梁ヅクル木ナリ

○女ノ文ニ書カシクハ恐惶ナリ惶根尊アリ

○御前ハ女ヲ稱スル詞也

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

完ハ完ノ誤ナリ

入道シタル者ノ姓氏ヲ名乗ラハナキナリ入道僧ナル故官モ僧ナリ

花押ヲ判ト云モ昔ハ判ト云ラノ有シ取違ヘタル也判ト云ハ日ヲアケテ置テ後ニ書加ルヲ云昔ハ今ノ名判也

官家ノ祠ヲ固防ノ國ニ始テ造レルアリソレニ畫像アリ髭コトノ外生テ威嚴厳ナル相ナシ

孝孺語リキコトノ御形ナルヘシ

福祿壽ト云福昌生祿昌生壽昌生ト云ラ星命家ニアルラナルヲ誰カヒトツニシテカリハ形ヲ造出シケン

源内平内藤内内舎人也

大郎五郎作ハサハシナルヘシ

七目女ヲ今ノ世コセト云ハメノラコセノ上ヲ略シタル也

慶應義塾図書館

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

花押ハ名ヲ草ニ書ヲ多ク也花押ノ上ニハ姓ヲ
書ヲナルヲ今ノ世ニ誤リテ名字ヲ書ナリ

○

賀養子ヨリシテ家ヲ相續スルハ頼朝卿ヨリ始ル

○

白張ハ服ノ名ナリ

○

白丁ハ人ヲ云ナリ

○

琵琶ノ字ニテンヒヨトヨムヲ誤リ也ト云人アリ却テ誤リ也轉軫ト書也

○

胃ノ卯月ト云ハ卯ノ月十九ハナリ四月ニ咲ノ花ノ咲ナトヲ以卯ノ月ニ咲花ナル故ニ後名付タルナルヘシ

○

十月ヲ神無月ト云ヲ或ハ神々ノ出雲ニ集リ玉フト云ハ非也或ハ純陰ノ月ト云難シ閏ノ月ハ五穀始テ熟ノ神ニ入ル十九ハ神嘗月ノ畧語ナルヘシ

○

論議ト云ハ真言宗天台宗ノ也談論

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

議ハ儒者ノ礼ナリ
問答ト禅ナリ問答
古ノ詞ハ多ク田舎ニ残リ都會ノ地ニハ時代
ノヤリ詞ト物出来テ皆カハリ行ニ田舎人モ都来
ハ頃ニテ昔ヨリ改メメ頃ハ田舎ノ詞モヨキニ替リ
テ時ノ詞ヲ習ヒ行テ田舎ノ詞ヲ
タルト云ハ悪キニカワリダルナルヘシ
位牌ハ今ノ俗ニ用ル位牌ハ儒家ノ制ナリ

今ノ儒者ハ家禮ノ法ヲ守
巡礼行人ナトノ著ル物ハ喪経ノ遺制
ナリ父母ノ菩提ノ為ニ喪服ノ内ニ観音大
日ヲ礼セル故喪経ヲ著タリシカ後ニハ喪礼モ
テスル服トナレリ御イルトハ禳ノ字ヲヨミ違
タルナルヘシ
烏帽子ハ并ノ遺制也朝鮮ヨリ傳タルヘ
シ折風ト云ハ朝鮮ヨリ元名也

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○辨慶ハ骨秘音ノ男也ムサシ汗カナニテ讀ルナルヘシ

○ロウトウハ若黨ニ對シタル名ナルヘシ

○中ニテ老タルト若キト谷ニヤケライハ家隷ナルヘシ

○ツクハ山ト云ハ常盤山ト云テ也松ノヨメルモ常盤ノ縁也

○水帳ト云物村々ニアリ御圖帳ヘシ民部

○省ニ大圖帳ト云テアル也

○春ハ艮土也夏ハアツキ也秋ハ飽也冬ハヒル也

○辛ハ軽キ也酸ハ清キ也苦ハ濁也

○甘ハ重也

○蝦夷ハ國ノ名ニ非ス人ノ種類ナリ國栖蜘蛛珠光ヒカル也集人ト云モ種類也

○コロナノヨケンシナクト云甲斐國ノ郷語也

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

ト云今モ遠江國ノ者ハ九ツシテ子ツト云ト

元喬云リ

○

晦日ニツゴモリト云モツゴモコリト云モ妨ナシ月隠リゴモリノ泊瀬ナトノゴモリモツゴモリ也ツゴモリハ月死ナリ

○

ツイタチハ月立ナリモチ月ハモチ月ナリ

○

山ハヤム川ハカハルト云理覚者ノ談ナリ

○

古系圖ヨタカラトスルハ本領ト云ヿ有故也今ノ系圖ハ虚文ナリ

○

ツシムト云詞ハツシムト云フナリ

○

唐ヨカラトヨムハ朝鮮ノアリシ加羅ト云國アリシナリ異國王ヨリ本國王ニ賜シ都督軍事ノ官ニ任那加羅ナトヽカソヘテ云リ始テ我カ國ニ通シヽハ異國人ノコヽニ後ニハ皆カラトイヘル成ヘシ

○

見臺ハ文臺ナリ脇指モカナリ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

禁色ト云ハ黄丹色深紅也御衣モ御馬寮飼舞人等ノ臨時ニ許スルハ著用ヲ禁ス下ト云ルハ山鳩色ノ下ト云ルハ黒朝ニテモ天子ノ服色也

エタヨ長吏ト云張里ノ誤ナルヘシ

カウツケシモツケハ上毛野下毛野ト書テ元ハガウツケノ國シモツケノ國ナルヨ後ニハ毛ノ字ヲ除テ訓ハノトニ云下ヲ訓ヨリ除ケリ二ツナカラアメラレニテ

レリ

フツカミカヨカ文字ハ箇也フツカノ日ミカノ日ナト云

一日ヨリ晦シマデハ日ノ字ノ訓ヨリカト云ヤウナリ

メテタクハ愛スヘキ也

カタシケナクハカタケナルニテモナキ也

越人ニアタシ人トヨムハ心得カタシ

アタシ田カハアタナル田カト云下也越人ヲ讀ハ歌人ノ義ナルニヤシ文字穏ナラス

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○狩ニカラモヤニトモ狩ニ鹿ヲ本トスル也ガリト云詞モ鹿ニヨレルニヤ

○改易ト云ハ戸籍ヲ改易スル也

○侍烏帽子直衣襖ト云物ハ古ニナキ事也

○十月ヲ霜月ト云ハ戌ノ月ナリ霜降ル月ナレハヨク叶ヒテ覚エ

上総ハカミツフサ下総ハシモツフサ也安房モフサト云字ヲ用エ吉ノ扶桑國ナルヘシ下野ノ國ニ名ハアラ

ト云所アリ出羽ニ羽名ノ山アリ古ハ黒歯國ナルニヤ

○クニハ郡ナリキミハ君ナリ

○江戸水戸坂戸リウ戸ツク戸今戸花川戸ナト地ノ名ニ多シ戸口ニ高テノ名ナルヘシ

○タイヲ鯛ト書ハ周防ノ魚ト云事也

○坂田ノキントキハ公(キン)郎(トキ)也物部ノ系圖ニアリ

○是ヲコサルヘシト云ハ見ホリサルト云形ニ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

付テ云ル也此比コサトノホリサトト云カヘタルハ却テアシキ也

○今ノムスヒ文ハ鯉魚ノ形ナルヘシ

○中将姫ハ豊成ノ娘ト云ハ心得難シ女ノ名ニ官名ヲツケテハ未ノコト也

○シヤクシテト云ハ赤口神也

○五ム日ハ五墓日也

○クヒ日ハ九金日日也

○シヤク日ハ赤口日也

○鳩ヲハ幡ノ使者猿ヲ山王ノ使者ト云モハチニシノハサン王ノ使者ト云ルヲ取テ云ルヘシ鹿ヲ春日ト云モカノ文字ナルヘシ

○コウジタルハ困ノ字也田舎ノ人ハコチタリト云クチ惜キ云ハクチ屈ナリ

○苔匂クツカツラカト云比自音ナルヘシ

○ハヽハ波女々ナリ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○神代ト云テ死ル人ヲ神ニツリタル人ノ代ト云テ
詞ナルヘシ神武帝ノ時ニ云ル

○朝廷ノ職ト云武家ノヲ役ト云是モ異國ヨリ
來レル詞ナリ職役ト云詞ハ官吏ニ撰ツテ官人
ノ司リシ職トシ吏ノ司リシ役トスルナリ

○帯カヨタメテワキトヨム上總國ノ人ハタチハキト云
也

○古ハ俗人ノ入道シタルヲ沙弥ト云

○淳ヲメトヨメルハ沼ト云テ成ヘシ

○コリハ行李ナリ旅ノ荷物ヲ云ナリ

○狐ヲヤカント云ハ射干ナリ狐ニ似テ木ニノホルモノ

○コテウシトハヲコツレウシナリ

○露路ト云ハヤ子ヲカタ地ヲ云ヲ誤リテ庭ノ下ニシメ
ルナリ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

○國司ハ國守ナルヘシ

○君臣ノコトシ主從ト云ハ郡縣ノ代ノ名也郡縣ノ代ニハ天子ヨリ外ニ君ハナキ也

○神主ト云昔ハソノ神ノ子孫ヲ神主トシタル也表主ナトノ心也

○談儀ト云ハ今云フ講釋ノコト也

○サンザト云ハ俗語ニ物ヲ忌フ人ノ死シタルト云テヲ六日ト云シヨリ起レリ

○六位ノ裝束ヲ布衣ト云習ハセリ布衣ハ無官無位ノ稱ナリサレハ布衣ト云ヘキヤウナシ物語ノ類ニホウアトイヘリ

○六位以下ヲハ今ノ世ニハ官位ノ中ヤウニ思ハヌコトハ其昔五位以上ニバカリ位田有テ六位以下ニハ位田ナシ

○カリカネハ雁カ音ト云フ也

○コトフキト云ハ祝スルコト也壹岐命ノコトニ思ヘルハ博士家ノ誤リナリ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

代官ト云ハ昔ハ國司ナトノ名代ナルヘシ今ハ
賤シキ職トナレリ

吾邦ハ女多クノ男カスクナシレト云サモ有ヌヘシ女ノ
生ルハ多クノ男ノ生ルハ少ク人ノ妻女ノ死タ
ルヲ聞ケハ多クハ人別ノ帳ト云物ヲ見ハ誠
ニ女カ千也サレハ陽ハ少ク陰ハ多キモノナレハ
異國モカクノ有ヘシト思ハルヽナリセハ世ハ乱
ルヘキ也

古ハ三尺ノ劔ト云ハ今ノ三尺五分也

テウチン 吊燈也 挑燈ト書ハ僻ナリ也ツルヘモ
吊紙也

三線ヲサミセントヽ云ヒノ字開口音ナリ ハ子カナヲ
ミト云ルヲシラテ味ノ字ヲソヘタルナリ

苗字ト云ハ室町家ノ比ヨリ起レリ鎌倉ノ代ニ
ハソレ〳〵ノ住所ニ從ヒテ和田氏云三浦氏稱シ
今ノ世ニハ物學ヒタル非事ノ假名ノ字ニ用ルアリ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

假名ノ様ナルナリ世俗ニ稱呼テ字ニ非ス吾邦ノ人ハ字ハナキ也字ツカント思フ人ハ別ニツキメラレサレリ

○

遠江國ハトヨツアハウミノ國ナリ今切ノ渡ノ北リシ前ハ湖ナルヘシ美濃國ノ道ノ左リ右リト云ヤウナリ

○

今ノ世ニシハ古ノ葬ニ鼓角ヲ用メリ三代實録ニ八方相ノ丁有僧ニハ借ラヌヤウナリ

○

儒者ノ頭剃ル儒家ヨリ始リテ僅ニ六七十年ノ間ナリ元禄ノ比ヨリ皆昔ニ返リタレハ今ノ人ハ儒者ノ頭ヲ剃ルヲ知ラヌ人モタメシ医者ノ頭剃ルモ斯ル例ナルヘシ記録ニタル物ナケレハ人々昔ヨリノ丁ト思フ

○

火事ノ名折本ヲ招ク本トヨリ誤リ乍ラ火元本ヨリ火ヲ出シ民家ヲ民ノつくろふ兵衛ハつくろふ

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

つきとふ事なり

○ 新居とふふ朝廷の名あふ山

○ 天のかく山とふ事ハ山の名あふ山

の高くてせいのかくをふ

○ 松村の六郎とふ人ハ九州平家の残党ふり仁義もれたる

生ふふり

いれり

彼ふ説一字ふくの訓を結知りとも文とい

うふハ字と書てもをし今て義をなす

○ 才市井くハ六ヶ敷詰の移る事なりと

指ふ説なり

○ 君俗云関思恭ふり弥介廣次ふ佐なり

○ 若八国君也細井の奴ふもふ名也

若八古事也細井の奴ふもふ名也

事ふ私なれふ自ふ出ふりよふ

ふ細井の仏せふのふふ

限文も詰ふ学ふも皆同ふふて仰通の

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

なをしるす

○

京極黄門撰ぜられたる小倉山の百人一首の歌をいでたるなり（一）

○

板先生曰定家卿小倉山荘をかまへて老後やすく和歌をもてあそびふけりしかばかれこれとこの歌を書てえもとめふかの色紙ともなりぬるなり

○

又その花を画ける屏風に書よ浄の布よ

ふりのこされて古き屏風に小倉山の花画きたるを見て

京極黄門撰ぜられし小倉山荘色紙和歌

一位より二位八重桜

三位八藤袴 今の袴なり

四位八深緋 赤菜染にしてあるべきことなり

五位八浅緋 今の緋なり

六位八深緑 松をふかの色なり

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

七位六藏芙（ムラサキ）の系統なり
八位六深緑（ハナダ）紺の流なり
神位六淺緑當世の流なり

さて一條天皇の比よりまでの御禮
て正暦年中より一位の御染
うよう繁をかけて染くる
うよう縹をうけて染くる
追々御禮まで黒染をそ

くくりをそめ事也その染和ら黒染を
直指ぬをん御ありける

○

金の之色

黄金　古加祢
銅　阿加祢
鉛（ナマリ）　奈乃利　青金なり

白金　之路加祢
黒金（コガネ）　久路加祢

将軍家の御染を縹と黄と之色
なり

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

○
六天等乃至京号ふ六天ふ
ふ六天の号を因舎号ふ
○
古今刹柱ふ礼たゞ三ケ条ふ
ふ礼とふ
○
弐曰刹の像ふ刹を
半也
○
延寧二年の比檀ふ陰
白帳ふとゝもに刹柱ふ

○
禪家之五派
黄蘗宗　臨済宗
曹洞宗　僞仰宗
曹洞宗之両本山
越前　永平寺
能登　總持寺

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

嫡ト云フハ本妻ノ子也
嫡子ト云フハ本妻ノ子ニ何人アリテモ嫡子也
ワカ國ノ如ク家ヲツグ男カノ子ヲ嫡子ト云ハ文
盲也嫡ニハ本妻ノコヲ云ヒソレユヘニ妻ノ子
ハ男女ニヨラス嫡子也妾ノ子ハ兄ニテモ庶子也嫡子
ヨリ年上タリトモ庶兄ト云妾ノ子ノ年下ナル
ヲ庶弟ト云是ハ人多ク誤ル故記ス
佛法日本ニ渡ル事一人主三十代欽明天皇十三

十月七日ひの聖明王つかひをもて釋迦佛の
金銅の像経論をこれくまをくれる
おほの佛法のはじまり
彩色等開發明暦三酉八月
楷
模産と八云のみおもこゝろ
燈よ我をたすけ給へ
紅蓮とうの菓子ありけ菓子を紅蓮とも
北丘尼う註果子を剏ル

国立国会図書館蔵

百ルとゝの
春も牡丹餅 杜八お萩(ヲハギ)と云
東宮よ矣篁竹多く植をけで月さし生る
ひも宮り歌うたりて画(カク)るうてくるより
を面白
詰よ基を打よも指こんと打へらべ百ゝぜ
と打へ
詰よ云ゝぬ小利勘ひより
まゝとあり

千カヤ 苦迫を田舎の方云苦(スカ)もの
なり
昔の諺よ和尓語(ワニガタリ)さ故よ尓のもを寸拵文
を天とゝ云諺あり
昔を江を海と云(ヲヨ)ふり
古の諺よ儀の穴より大蛇
あるの故よ小敬る事と
思ふく情もへさうもなり
七もの筆は字の経より
意悪の語り八空人を免(カ)

業を怠りしもの、
雷大風 洪水 地震 花柳 諫死
女性の士 業理を
政人の徒のい 佞人奇政 ひま醫師
追従程頂 礼人 勧進唐
鉄砲の 倍増の盗賊
多金を招くもの、
悟真 傾城のあそび 奏 家業を怠り

畜類のよも踊り心あり
ろぬるをものぞりおり
しまり
衣をだよさぬれむ在家のよみるものと笑
う信ハ大者りのもるし
はけもなく一ハよ重記を行ふもの来りまり
て多金をもうまり
布袋八祥信まして風顛漢とふ狂人の振吹
人まて福人まあらん
庚三郎敬と八海を主る神をり福人ふ事

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

性うちよりえもぞ
後花園帝詔の曰民ハ本よりて公武ハ末也
今世ハ本を棄てて末の盛んなるハ能らぬ
事なり
頭りの柱ぬ世秋の時より始りうるよし海辺
の立および花のようりを頭りの始めとそ
按ハ古代今後やうのをりの木より橋を
ふ塗もりて頭ひ柱高紀主橋よ塗うまを
始む

釜の造り始めハ河内の玉井治郎まて造り始む
元假名の造り人も吉備大臣つくり始む入唐
ハ書もの事なり
御名も治ハつくり始むハ大師の生年也
宝亀六年六月生る
年号の始りハ孝徳帝元年を大化元年
とそ
人皇卅二代元明天皇の御宇七月始そ武
銭文数を改めそ和銅元年と改元そり和銅
より和銅通宝銭を造そる故也

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

あしこみ犯しみふ生ま八たてあの泡ふ砂ら
り
砂地をまなれ八人なくさもるう漆ら漆
手をもり芸もくも乳
ほのうふ傷く当よいふしくよ
漆こをりて玉を治めるふ
乱饒の弁八重淺輕くし
柱つのかこふ私ますふ

あれとたよ楽むふあふ八仏
大当の家のかふふ私ま
うこそてとれとして当
せそそ況よ私れ火之ま
事な
辺地よ私ま八住友好ひ
もなれろう
いそうひあるもの八食数
独り手をもまの八人かふ
寝あれて死ま多く

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

黄葉園蔵

あるじとおぼしたるのりあ
松をあまたまんなかにうえ
まてもこち深き理りを述
ざる事多し夫より先の
事まのあたりえこそ
ひなる八天の帽子
して肉方なる八何故
八元天地万物のかくも
不思議なるふこと
あらうまんを方まて天
地の歌

八方そり高き八物
正しき形なりされど我通八
してもうもあまねきつまじ
まひ光をあつめて
前の田男の衣八裏
しまものまて織り
の玉よ光る珠の衣
とくともて天の衣
とうたふ伯ちく八海人
村そのひろき男
八方そり高き八物
正しき形なりされど我通八
してもうもあまねきつまじ
まひ光をあつめて
前の田男の衣八裏
しまものまて織り
の玉よ光る珠の衣
とくともて天の衣
とうたふ伯ちく八海人
村そのひろき男

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

ふよし和通うち笑ひ信敬のうんふうさま
よりてこゝて来りて相語りいとれ我う名を名
のるよ及なびをうて名のらぬもをろしめさ
れんのを今八日も書うこゝりこゝまさん
とそ存をこゝあるこゝもうを恐くえれだ
ゑ淺百ゑをもうこゝりこゝおふ何もなし信敬
ふをえるよ和洞通寛乃淺なりつる

ろふふ秩父和通ふ敬淺のある事うこゝふ
なしそ況をふりうる里人をゑて信敬相語り
せられるをうさ人の祈うあやしこゝん
つり今ふをゑをふ昔ふ敬人主ゑ代元治
天白ふ治宇七月ふ武州秩父の郡より始め
て洞を黄ふこゝ時の郡ふ津の宮ふ雑談の文ふ
おゝませり元年より云ふ雲ふ年をゑめ
て和洞元年と改元せり洞通寛のふ淺ふ村
ふそうこゝされて今ゑ和洞通寛のふ淺ふ村
の淺ふをゑ一帖ふの外多く内方ふる信ふ淺の
祈うこゝまをのひうこゝされ洞のさふんふ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

珠の手を八淺井和通と名のり
し八和洞通宝の略せる名なるべし 按文の為
といひし八元洞のなしゝめを不たり彩色諸
玉あまくめをり又こゝろと云ひ伝るも誌ま
れ渡られし事なるべし 夫淺のおち八外の名き
八夫まかことり穴の方なる八地なかことり表裏
なる陽とをかことれり文字の裏にも八ほりり
かことりこゝ年号をあらハして天下よ紙八ひ
寛ととて淺八是なくしてをくもり旋なり
くして高くある表顔くせ悪しう老も淺よ

仰ぐ為みをふくむ詞なるべし淺見
れをひしくく杉飯小方得の庵あり樸光
淺の庵ありとゝもに淺のくに八路人毎り
あり裏をゝこゝ兵ゝ淺ほゝもみる淺よる
休て八なし給ふゝき老淺をえそ八創て食を
求るらことくもをりる多き人淺をもそ八病人の
醫師可逢ふ小ゝて識の窓なりとて折
悦びうの百文の淺を得ち里人りあき
へ頂ゝ老云院雅尼とゝまて住まとをとけ
らる里人夫より都ゝ紙ひ老糸双りて得ち
を数ひらつゝ淺よ山名ゞ九小あゝて里人皆ち

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

りちりぬり位も行方なく古戻も久しと
之り
寶多けれハ求まるに我心一定をとらし
おくの仲立をもとし
勢ひある者ハ金欲ふり
猶り求るもの人よかるし
寶あれハ恐れ多し
貧しれもひもり
人我執ハ年化の奴とそ
人をもこめて思ひそまつらハ
年り改て求者しむ又もろ
ねだ狂てよ

仏ぬり
おのの新うるを重とも
と
拭布の汚を見つのさよ
ふへうる
色と酒を敵とをもし
小るよる別せよ
大事よ新くへうる
多別ハ高思にあるをもし
玉の改を耕作をおとそ
人格をおとす

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』 請求記号 860-31　　ガラス使用

御座を敷ふし別まあるべいとまあるたゝ
む芸のうをんりかけぬを生の通りす
ゐをおしむ人おしたこうくと忍よくす
人多り
大木へ風強くあるるものよそれ
こゝ多あるる
奏りの八枝ゆて離多多
多家ゐも事おさを生むし
大望の家八和より足雪絡えもれとも事多
してまのん安を陸なさるものあり

当て我とつむ八庭き事
男ひ八面白の家よ入事
稽ひ八彩色の家ふ入ふ
大綾八大悟のなり
彩をとられて芸の市
会釈を止もけを苦もか
百の八悟忍ると重一を
されて法り満るなし
明友よ交ふもかんみんな
なり
言八んのこゑなり

以を慎めであまちおし
大の禍ひなり
事わりあまさだ敵なし
忍て辱あり
寛容ここを身の為
言行を慎むべきなり
又宇宙の事共を利
害曲直ともに思をあせで
善悪ここを人ありて自ら
大欲を棄小欲
一言のあやまち莫

太玄ハ末代の今世の為を
親友ハ百世の為とぞ我子孫の
民を導ク君ハ即ち
民を含ムハ其ノ
志ハ寛大の集る所なる
講ル所ハ経義の
自慢ハ知恵の
名聞名法等のそらの
根元の為ハこゝろを
経典ハこゝろを
あさましの書生

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

我慢ハこゝろのあこりて
他人ハまことよき汁を包もちて
人を悪しくさゝやかんむし
ありの侭なる心ハ
小倉ハ水生さるの去るし
紀楳を他人のてくだ
あることを拓くよふな
人の名悪をよくよこゝろ
へて
まめやかなる時ハ自ら

不動くハ是生なるへ
浅の沼
外多くして内方ハ
更りをゆの才なる
らるる則ち多かり
ひ文字の程ハ
して左くさり朋友
せ悪しき人も浅
をよこだゝをひくもし
ふる人の会を求ふて
我もて人の過ちよ

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31
ガラス使用

紹述も淺からず
然れども渋芝字は伯英（鍾繇）
鍾繇字は元常
（二人劣勝のちとそ
なき人の二王と云ふ
自然之文自然之字と
なづけたるより
大学や中庸を禮記より
出でたり

黄葉園蔵

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

正月元日冷酒を山椒入れて
温飲を為すと

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用

祖父母の兄弟を大伯叔父母とも
父母の兄弟を伯父伯母とも
伯父伯母の子を従父兄弟とも
従弟の子を従弟遠ひとも
従弟遠の子を又従弟とも
高祖父母の子を曾祖父母とも
曾祖父母の子を祖父母とも
祖父母を我父母とも
我子の子を孫とも

孫の子を曾孫とも
曾孫の子を玄孫とも

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』 請求記号 860-31
ガラス使用

ㅇ

ㅏㅑㅓㅕㅗㅛㅜㅠㅡㅣ

ㄱㄴㄷㄹㅁㅂㅅㅇㅈㅊㅋㅌㅍㅎ

ㄲㄸㅃㅆㅉ

ㅘㅙㅚㅝㅞㅟㅢ

右假字未附錄

天神地祇被給清永給幣

天照大御神

ㅇ

아 이 우 에 오

가 기 구 게 고

자 지 즈 제 조

다 지 즈 데 도

나 니 누 네 노

하 히 후 헤 호

바 비 부 베 보

파 피 푸 페 포

마 미 무 메 모

야 유 요

라 리 루 레 로

와 (ゐ) (ゑ) 오

ㅇ

아 이 우 에 오

가 기 구 게 고

자 지 즈 제 조

다 지 즈 데 도

나 니 누 네 노

하 히 후 헤 호

바 비 부 베 보

파 피 푸 페 포

마 미 무 메 모

야 유 요

라 리 루 레 로

와 (ゐ) (ゑ) 오

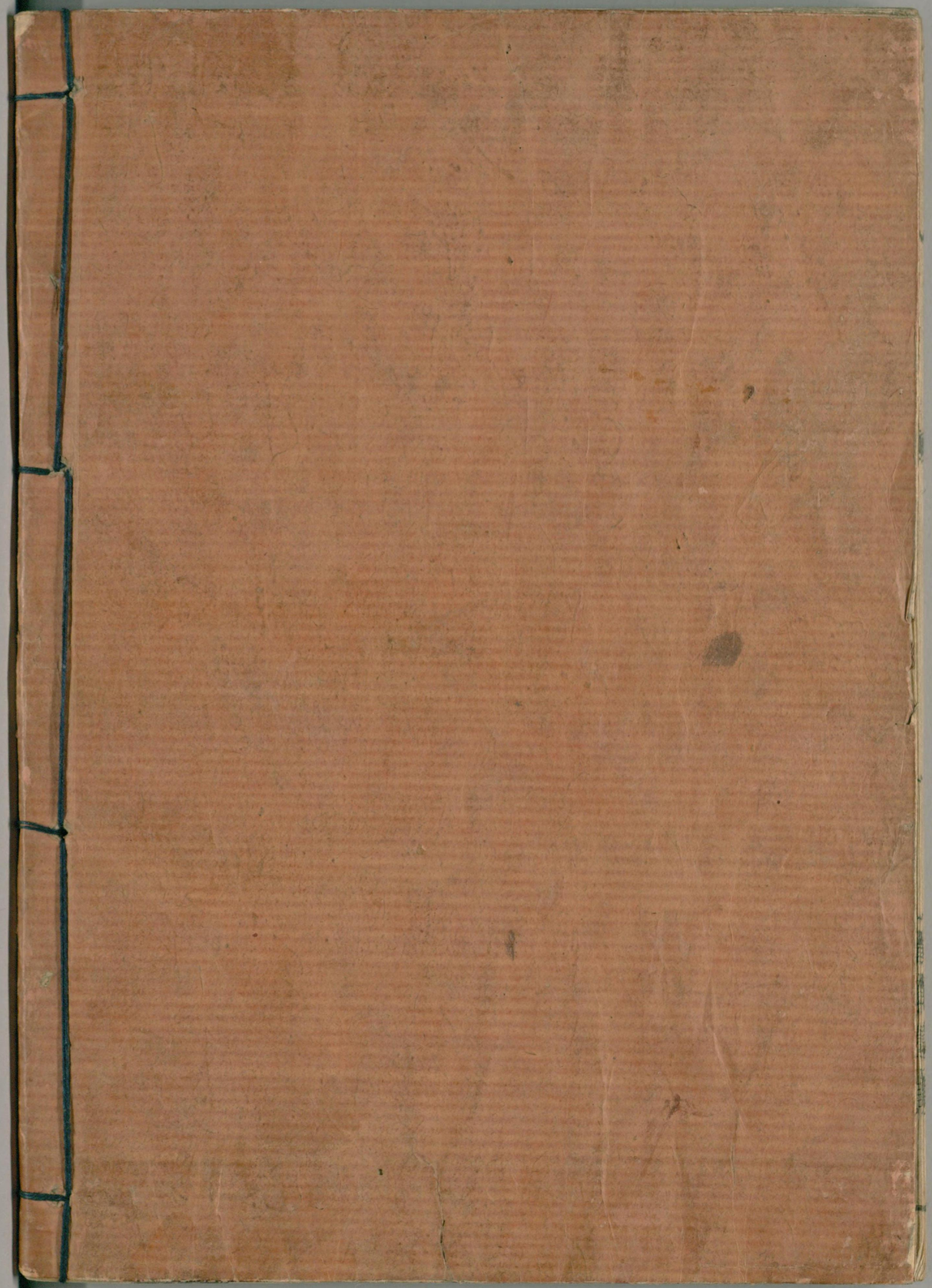
国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用

860
帝國
31

5391

国立国会図書館　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31　　ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『黄葉園随筆』　請求記号 860-31

ガラス使用